



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 169 号 ■

第35回通常株主総会
30周年を迎え、新たな未来へ

代表取締役 石川 隆之

5月25日(水)午後3時より第35回通常株主総会が本社会議室にて開催されました。

冒頭挨拶の中で1号店である弘前調剤センター開設から30年を迎え気持ちを新たに奮闘する決意を述べました。情勢について、自身が総裁では任期が迫ってきた衆議院選挙は戦えないと判断した菅総理は突然政権を投げ出し、岸田政権を誕生させました。その後の衆議院選挙で市民連合を中心とした野党共闘は一度の成果をあげましたが、一方では

一部野党の右傾化などから改憲の危機は続いている、改憲阻止の運動は正念場を迎えているとしました。

次に用意した第1号議案から第7号議案までを監査報告を挟んで提案しました。2021年度の事業活動の特徴点としては、コロナ禍に於いても各薬局とも引き続き民医連のもつ優位性を発揮しつつ、患者は勿論のこと職員もコロナの脅威から守りつつ「かかりつけ薬剤師業務」などの「対人業務」を推進し、結果として多くの



株主総会の様子

技術料算定に結び付いたこと、また、今年度は医療安全やBCP(事業継続計画)作成などにも力点を置いた活動をしてきました。一方、2021年度決算では、各薬局とも最大限技術料を追求したところや全国的にも稀な例として処方箋枚数が、わずかながら増加したこと等により当初予算を大幅に上回ったことが報告され

ました。

2022年度の事業活動計画では、初めに今後はwithコロナを見据えた事業計画や中期計画が必要なことを訴えました。また、基本的視点として患者・職員を新型コロナウイルス感染症から守りつつ民医連事業所として社会的使命を果たしていくことを提案しました。また今春の診療報酬改定の意図を汲み取り「かかりつけ薬局・薬剤師」として「健康サポート薬局」や「地域連携薬局」機能と連動させ機能別薬局制度への対応をしていくこと、結果として真に患者様に寄り添った地域になくはない薬剤局を目指していくことを訴えました。民医連が提唱している「医療・介護の2つの柱」やSDH、さらにはジェンダー平等の視点などを取り入れた形での中期計画を役員員の議論により深化させ実践していくことも訴えました。また、後継者対策を最重点課題に位置付け、役員一丸となつて人づくりを進めていくことも提案しました。

2022年度予算案では薬価改定による事業収

第45回全日本民医連総会
方針学習会

ファルマ弘前薬局 薬剤師 奈良 美春

6月17日(金)と6月21日(火)に、第45回全日本民医連総会方針学習会が行われました。ファルマ一ツ谷薬局の佐藤薬局長を講師に、ファルマの全職員が参加しました。

第一章では44期の振り返りが行われました。新型コロナウイルスという過去に例を見ない脅威の中で、貧困と不平等、社会保障と平和の問題点が浮き彫りになったこと、民医連として、これらの問題をよりよい方向に変え

益減の影響や人件費の増などにより昨年を大幅に下回る予算となること、またその対応策として在宅の拡大や効率化、かかりつけ機能の強化を図り処方箋枚数増に繋げること、中期計画を確実に実践することを提案しました。

併せて、今年度も全日本民医連や県連に結集し、民医連綱領を実現していく立場で役員一丸となつて活動していくことを確認しました。最後に全議案とも満場一致で採択され、滞りなく株式会社ファルマの第35回通常株主総会は閉会しました。

させていくことが重要であると学びました。

第二章ではコロナ禍での日本と世界の情勢の特徴を学びました。貧困と格差が広がる中で社会保障の解体、憲法9条改憲で戦争する国に突き進む岸田政権の問題点を理解することが出来ました。

第三章では第45期運動方針の基調と活動の重点について学びました。公正でいのちとケアが大切にされる社会の実現を目指し、平和憲法を守り抜

今回の学習会で、全日本民医連総会方針について詳しく理解することが出来ました。

青森民医連定期総会

ファルマ弘前薬局 副薬局長 葛西 孔明

5月22日(日)青森民医連56期定期総会は全体討論、分散会討論ともに初のZOOM開催となりました。この2年間のコロナ禍での取り組みが多くの事業所から挙げられました。私もファルマ弘前薬局でのコロナ禍の取り組みとしての感染対策、0410対応、発熱外来対応について報告しました。各法人の取り組みを知ることができる有意義な場となりました。県連全体の方針、

課題を意識しつつ今後の業務や取り組み(活動)をしていきたいと思えます。



ZOOMで参加した定期総会の様子(本部)



ファルマ弘前薬局の学習会の様子

2022年度全日本民医連

新卒薬剤師研修を受けて

ファルマ弘前薬局 薬剤師 田中 理久



ZOOMで話を聞く田中薬剤師

5月25日(水)「2022年度全日本民医連新卒薬剤師研修会」にZOOMで参加しました。全国の民医連新卒薬剤師と交流する貴重な機会となり、楽しく活発に意見交換することができました。当日はまず、グループ内の自己紹介をした後、民医連綱領や日本国憲法について学びました。また、薬局・病院それぞれの先輩薬剤師のお話を聞き、新卒薬剤師同士で今の仕事の様子や悩みについて話し合いました。最後には、それらを踏まえて自分がどんな薬剤師になりたいのかを発表しました。

全日本民医連BCP作成研修会

居宅介護支援事業所ファルマ 伊勢 充



「Business Continuity Plan」(以下、BCP)は「事業継続計画」を意味し、令和3年の介護報酬改定により、すべての介護事業所に策定義務が課されました。自然災害や新型コロナウイルスなどの感染症の流行をはじめ、テロリズムや情報セキュリティ事故

等、事業に影響を及ぼす様々な脅威に晒された時にいかに事業を継続・復旧していくか。それが社会的責任を果たしていくことに繋がります。

5月18日(水)、全日本民医連主催のBCP策定研修会にオンラインで参加しました。全国から100名を超える参加があり、重要性と関心の高さを感じられました。平時から、地域のハザードマップや地域の情報を収集しておくこと、いざというときの職

合いました。

この研修会を通して民医連の医療人として、健康とは身体的・精神的な面だけでなく、社会的な面についても考える必要があります。どんな人でも医療・介護を受けられるように、社会保障の制度などについても学習するべきだと強く感じました。

また、先輩薬剤師がどのように1年目を過ごしたのか、同じ新卒薬剤師がどのようにに過ごしているのかを聞くことで、自分これから目指す薬剤師像のために、どのように勉強や生活、仕事をしていけばいいのかを考えることができました。

予算管理テキスト学習会及び改定対応交流会

本部 課長 鈴木 健仁



6月25日(土)午後、青森民医連予算管理テキスト学習会及び改定交流会に参加しました。第1部は全日本経営部の内田寛次長による予算管理テキストの学習会、第2部は事業別グループに分かれての交流会となりました。第1部の学習会では、中

長期計画の作成、必要利益に基づいて目標を決め予算を作成することの重要性を学びました。ファルマでは以前から行っていることで、方向性は間違っていないことを確認できました。その他で気になったことは、コストをかけるポイントを見極めることです。どこにコストを掛けたら効果的なのか、削減する所はどこなのか見極めることが重要だと感じました。コストだけではなく収益

についても同様でどこにポイントを置くかで、今後の経営に繋がってくると思います。

第2部ではあおもり健康企画との交流会となりました。ファルマでの加算算定の方法や、どのように薬剤師と一緒に進めたのか、この話題が大半を占めました。

今回の交流会を通して、目標を決めたら一丸となつて突き進むことが出来るのがファルマだと改めて思いました。

写真紹介

薬について

5月28日(土)と6月25日(土)に野田町会集会所にて野田町会主催の出前講座が開催され、それぞれ10名の方が参加しました。

5月28日は弘前調剤センターの工藤雪絵薬剤師が「薬の正しい飲み方、使用方法」について講義し、ファルマ弘前薬局の須藤主任が参加者と一緒に健康体操を行いました。6月25日はファルマ弘前薬局小田桐由衣薬剤師が「薬とサプリメント」について講義し、藤代薬局の三上さんが健康体操を行いました。どちらも講義、健康体操が楽しかったと大好評でした。



質問に答えながら話す小田桐薬剤師



薬について話をしている工藤薬剤師



参加者の皆さんと健康体操(6/25)

日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

取締役薬剤部長 フアルマ弘前薬局 薬局長 相馬 渉

6月11日(土)〜12日(日)に横浜で第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会がオンライン・現地のハイブリッド開催で行われました。現地開催は3年ぶりです。オンデマンド配信のない現地のみのワークショップを中心に参加しました。インタラクティブセッション6「実はあなたが、キーパーソン!多職種で目指す、診断的安全性が高い組織への道」のファシリテーターを務めました。

診断エラーとは何か、どのようにして起きるのかについての科学的知見を総論レクチャーで学んだあとに、診断エラーが起きた症例を提示し、診断プロセスにおいて様々な職種がどのように関わっているかを「見える化」します。さらに、「見える化」した内容を分類し、診療の質を上げるために個々の職種が行えること、多職種チームとして行えることを検討します。今回の企画のために、ZOOMで何度も打ち

合わせを行いました。立ち見グループが2つできるほど大盛況でした。参加者の6割が医師で、3割が薬剤師、1割は看護師でした。普段、薬剤師が診断に関わっていることなどあまり考えたことがありませんでしたが、一人の患者様を中心に、得た情報を多職種で共有し、チーム医療を実践していく



参加者の皆さんとの集合写真 (前列一番左が相馬薬局長)

ことが、診断エラーを起さず、良い診断につながっていくのだと思えました。

情報公開制度の仕組み利用の仕方と活動報告会

相談役 高松 利昌



報告会の様子

5月28日(土)に弘前市の城東閣フレキシブルホールで弘前市民オンブズパーソン主催の情報公開制度についての市の出前講座と同会が取りくんだ県議会派遣による海外視察旅行費用返還請求訴訟についての報告会がありました。

情報公開制度は弘前市の場合、1998年10月からスタートしました。同制度は地方自治の本旨にのっとり、市民の市政についての知る権利を尊重し、

「市の有するその諸活動を市民に説明する責務が全うされるようにするとともに、市民の的確な理解と批判の下にある公正で民主的な市政の推進に寄与することを目的」と(条例第1条)とするものです。この制度の出前講座では市の法務文書課の職員2人が条例を詳細ながら手続等についても詳しく説明されました。参加者からは開示請求手続きがなぜインターネット上でできないのか等の質問が出されていきました。

自然エネルギーについて考える

フアルマ弘前薬局 主任補佐 工藤 由希子

6月26日(日)弘前市民会館大会議室で核燃・だまつちやおられん津軽の会総会と市民講座が行われ、記念講演として弘前大学農学生命科学部名誉教授の佐原雄二氏より「大規模風力発電とメガソーラーの諸問題」についてお話しいただきました。

原発に変わる自然エネルギーとして風力発電や太陽光発電などが注目されています。巨大風車は、超低周波を含む騒音と振動、電波障害、風車の影、大規模開発による森林伐採、希少動植物への影響、水の汚濁など、累積的影響の問題があります。また、メガソーラーは、広範囲にわたる樹

林伐採によっておこる環境の激変や水質汚濁と土砂崩落の危険性などが挙げられます。エネルギー資源の乏しい日本で、どのように自然と上手く共存できるエネルギーを作り出していくのか、早急に考えなければなりません。佐原氏は最後に、「誰にでも可能な発電がある、それはできるだけ使わないことだ」とおっしゃいました。社会全体の課題として極力電気を使わな

れたいました。その後、行われた訴訟についての報告は同会代表幹事の葛西弁護士が詳細にわたって報告し、結果として敗訴はしたが、住民監査請求後にフィンランドで使用したとして支出していた専用車を実は使わなかったとして14万円が県に返還されたことなどが報告されました。同会が取り組まなければ、この14万円は何処に行っていたのでしょうか?参加者からは、調査内容も杜撰(ずさん)で、高額な税金を支出してまで行う必要があるのか疑問、という声が出されていきました。

エネルギー資源の乏しい日本で、どのように自然と上手く共存できるエネルギーを作り出していくのか、早急に考えなければなりません。佐原氏は最後に、「誰にでも可能な発電がある、それはできるだけ使わないことだ」とおっしゃいました。社会全体の課題として極力電気を使わな



決議文を読み上げる工藤主任補佐

写真紹介

健康寿命を延ばそう

5月17日(火)浪岡中央公民館にて青森市浪岡婦人会主催で出前講座が開催されました。

ファルマ浪岡薬局の高橋和希薬局長が「フレイル予防」について講義しました。19人の参加者からは、「とてもわかりやすく話をしてくださり、勉強になった」などの感想がありました。



高橋薬局長の話に熱心に聴く参加者の皆さん

4才のわたし

弘前調剤センター 西沢 菜夏

これは私が4歳の頃の写真です。今回の記事の写真を探すにあたり、昔のアルバムを家族で何冊も見ました。私はとにかく食いしん坊だったようで、食べ物を手に持ちながら、手に持っているものとは別のものを食べている写真がたくさん見つかりました。そのほか、私は姉が大好きだったので、姉にくっついていて写真も多くありました。アルバムを見て自分たちの今と昔の変化に家族でたくさん笑いました。父は、昔はスリムで若々しく、スポーツマンという印象でした。妹は昔の父を見て「こんなにかっこよかったの?!」と言い、スマホで写真を撮っていました。

ちなみにこの写真は弥生いこいの広場で撮ったものです。祖父や祖母も一緒に行ったようですが、記憶にありません。今年のGWには私と夫と息子と3人で行きましたが、子連れが多い印象でした。息子はあまり動物を見たことがなく、保育園の先生からお散歩中に犬を見たら大泣きしたとい



弥生いこいの広場で楽しむ西沢さん

う話を聞いて、動物に触れさせたいと思い行ってきました。初めて見るものばかりで泣くだろうと思っていましたが、泣きもせず笑いもせず、まさかの無反応でした。もう少し大きくなったらまた違う反応が見られるかもしれないので、再チャレンジしたいと思います。

原水爆禁止国民平和大行進

6月7日(火)〜6月9日(木)にかけて、原水爆禁止国民平和大行進が開催され、各地域の行進に各職場から参加しました。参加者の感想と各職場の様子をご紹介します。

参加して 原水爆禁止国民平和大行進に

ファルマ弘前薬局 薬剤師 小野 孝太

6月9日(木)、原水爆禁止国民平和大行進に参加しました。ご高齢の参加者の軽やかな足取りにも

負けないよう、弘前市役所から道の駅「やたて峠」を目指しました。炎天下ではありましたが、終始楽しく行進することができ、両腕の日焼けは良い思い出となりました。



6/7五所川原地区

5月2日(月)からファルマ弘前薬局でフードバンクの取り組みが始まりました。ご家庭で眠っている食品などをお持ちいただき、みらいねっと弘前様を通じて、地域のこども食堂や経済的に困窮している方、福祉施設などへお届けいたします。たったひとつの缶詰でも空腹を満たす以上の

フードバンクで助け合い



ぜひご協力ください

希望が满满っています。ご協力お願いいたします。



6/8弘前地区



6/8浪岡地区



矢立峠まで歩きます



6/9弘前地区と矢立峠

写真紹介 9条改憲ストップ!

5月22日(日)と6月19日(日)に弘前駅前りんご広場で「憲法9条守れ、戦争法廃止!集会とパレード」が開催されました。5月22日は小雨が降る中、ファルマからは5名が参加し、ロシアのウクライナ侵略、原発攻撃や核兵器による威嚇反対などを訴えました。6月19日はジリジリと日差しが強い中、ファルマからは3名が参加。参議院選挙に向けて、防衛費の相当な増額反対などを強く訴えました。



5/22雨の降る中アピールしました

高齢者負担2倍化反対行動

6月10日(金)小林紙工向かいにて津軽保健生協主催で「後期高齢者負担2倍化反対行動」を行いました。「高齢者のいのちと健康を守れ」の旗を持ち、ファルマからは本部の4名が参加し、津軽保健生協の方と一緒に通行者にアピール行動を行いました。



通行人へアピールする本部の皆さん

薬物乱用反対普及運動

6月26日(日)さくら野百貨店弘前店で弘前薬剤師会主催の「ダメ。ゼッタイ。普及運動」にファルマからは7名の薬剤師が参加しました。薬物乱用反対の啓発活動に関するパンフレットや宣伝品の配布、募金活動を行いました。



さくら野の入り口で啓発活動